

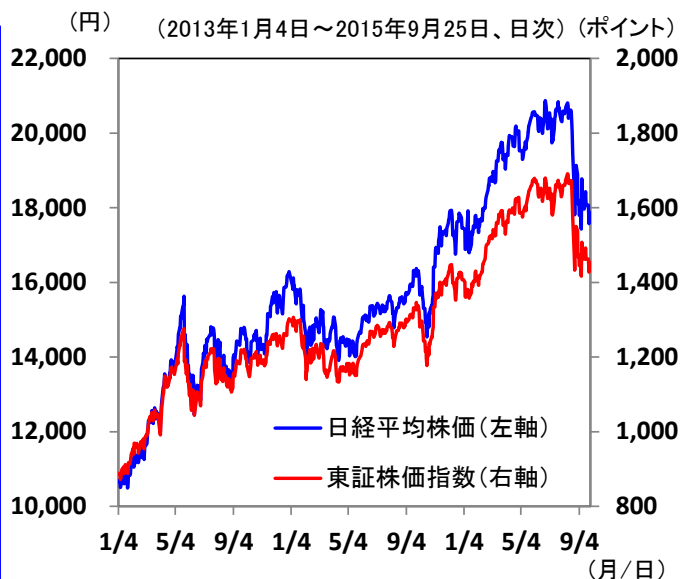
(1) 日本の株式・債券市場

株式市場の動き

■日本株式市場(日経平均株価)は、先々週は日銀金融政策決定会合や米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて、方向感の定まらない展開となりました。週初は、中国の景気減速への懸念から売られたものの、その後は海外株高を好感して上昇しました。18日(金)は、FOMCで世界景気への懸念が示されたことや米利上げ時期の不透明感などから下落しました。
(18日引け値: 18,070.21円)

先週は、24日(木)が米国株安傾向や中国経済指標の悪化、独フォルクスワーゲン社を巡る不正問題などで下落しました。25日(金)は、日銀の追加金融緩和策への思惑や期末配当などの権利付き最終売買日などから買われて上昇しました。(25日引け値: 17,880.51円)

■過去2週間では、日経平均株価は2.10%の下落、東証株価指数は1.78%の下落でした。



	9月11日	9月25日	騰落率
日経平均株価(円)	18,264.22	17,880.51	-2.10%
東証株価指数(ポイント)	1,480.23	1,453.81	-1.78%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

債券市場の動き

■日本債券市場(10年国債)は、先々週は、週初日銀の追加緩和見送りや米債券安、20年国債の入札が低調な結果となったことなどから売られました。週半ば以降は、日銀の買入れなど需給のひっ迫が意識され、また17日(木)に米利上げが見送られたことで米金利が低下し、日米の株価が下落したことを受けて買い優勢が続き金利は低下しました。(18日引け値: 0.314%)

先週は、国内景気の先行きへの懸念から日銀の追加金融緩和への思惑が強まり、また海外でのリスク回避の動向を受けて買いが優勢となりました。ただ、高値への警戒感から様子見傾向となり、上値は限定的で、金利も横ばいでの推移となりました。
(25日引け値: 0.324%)

■過去2週間では、10年国債金利は0.021%の低下でした。



	9月11日	9月25日	変幅
日本10年国債金利(%)	0.345	0.324	-0.021

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

当面の主な市場イベント(日本)

- 9月30日(水) 鉱工業生産(速報値、8月)
- 10月1日(木) 7-9月期日銀短観
- 2日(金) 失業率(8月) 有効求人倍率(8月)

(2)米国の株式市場

市場の動き

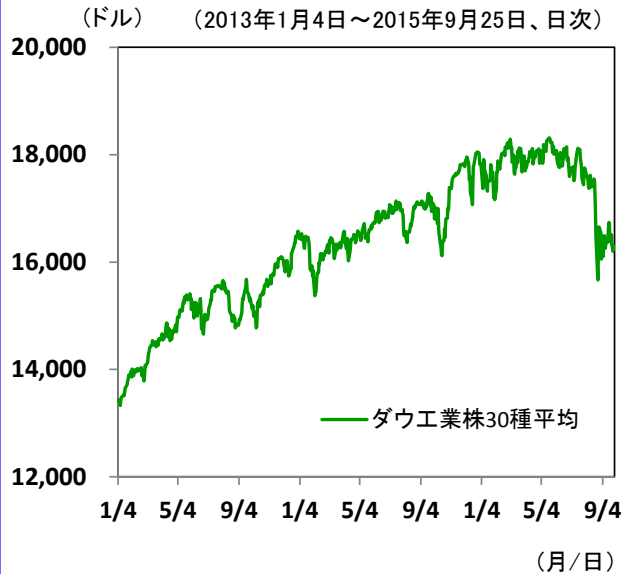
■米国株式市場(NYダウ)は、先々週は米連邦公開市場委員会(FOMC)を前に方向感に欠ける展開となりました。17日(木)のFOMCでは利上げが見送られ、世界経済や金融市場の動向への懸念が示され、また利上げ時期の不透明感などから売りが優勢となりました。

(18日引け値:16,384.58ドル)

先週は、中国景気動向への懸念や独フォルクスワーゲン社の不正問題、米企業業績への不透明感などから売り優勢で推移しました。25日(金)は、米経済指標の改善やイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演で、金融政策の不透明感が一部後退したことなどから上昇しました。

(25日引け値:16,314.87ドル)

■過去2週間では、NYダウは0.72%の下落となりました。



当面の主な市場イベント(米国)

- 9月28日(月) 個人消費支出(8月) 個人所得(8月)
- 29日(火) ケース・シラー米住宅価格指数(7月)
消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード、9月)
- 30日(水) ADP雇用統計(9月)
シカゴ購買部協会景気指数(9月)
- 10月1日(木) 新規失業保険申請件数(前週分)
ISM製造業景況指数(9月)
- 2日(金) 非農業部門雇用者数変化(9月)
失業率(9月) 製造業新規受注(8月)

	9月11日	9月25日	騰落率
ダウ工業株30種平均 (米ドル)	16,433.09	16,314.67	-0.72%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

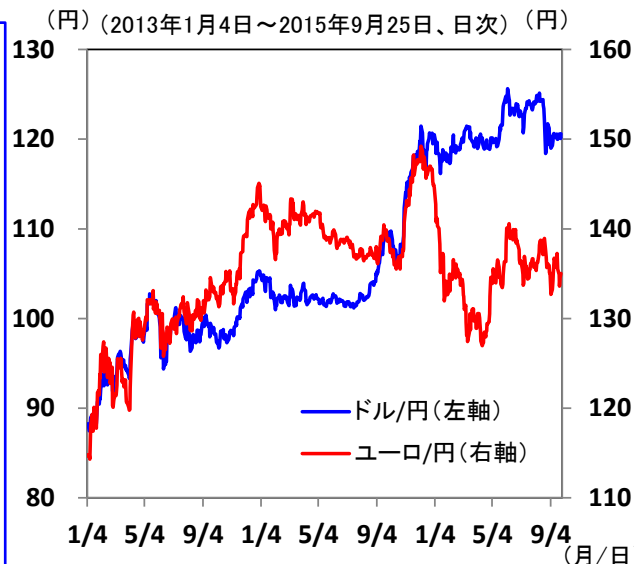
(3)外国為替市場

市場の動き

■ドル円相場は、先々週はFOMCを前に様子見傾向となり、積極的な売買が見送られる中、週前半は米景気回復期待で米長期金利が上昇し、やや円安ドル高の流れとなりました。17日(木)のFOMCでは利上げが見送られ、世界経済や金融市場動向への懸念を示したことや利上げ時期の不透明感がドル売りを誘いました。18日(金)は、119円95銭～120円05銭で終わりました。

先週は、独フォルクスワーゲン社の不正問題を受けた欧米株価の下落やブラジルなど新興国通貨の不安定な動向から円買い傾向で推移しました。25日(金)は米経済指標の改善や年内利上げ観測の高まりを受けて円売りドル買い傾向となり、120円50銭～60銭で引けました。

■過去2週間では、米ドル円は変わらず、ユーロ円は1.24%の円高となりました。



	9月11日	9月25日	騰落率
米ドル(対円)	120.59	120.59	0.00%
ユーロ(対円)	136.72	135.03	-1.24%

(出所:ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成)

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。